

令和4年1月

プロジェクト研究「幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究」

# 幼児期の育ち・学び調査（質問紙）結果 の中間報告の概要

国立教育政策研究所 幼児教育研究センター

# 1. はじめに

- ◆国立教育政策研究所幼児教育研究センターでは、**同じ子供を対象に3歳児から小学校2年生まで継続的に調査**することにより、**幼児期から児童期への教育の意義**や**幼児期の教育・保育の質がその後の育ちと学びに与える影響**などについて基礎的な知見を得ることを目的の一つとして、プロジェクト研究「**幼児期からの育ち・学びとプロセスの質に関する研究（H29～R4年度）**」を実施しています。
- ◆この研究では、「**認知的スキル**」だけでなく、「**社会情緒的スキル**」や「**生活スキル**」、また、最近注目を集めている「**実行機能**」などに着目しています。
- ◆今回、**幼児期（3～5歳児）に行った調査の結果を中間報告としてまとめ、公表**することにしました。
- ◆**本概要では、ポイントのみ説明**します。詳細は中間報告本文をご覧ください（論文等で引用される場合は、必ず本文をご引用ください）。

## 2. 調査方法

- **対象：**

**3歳児調査（H29年度）**：3歳児の担任保育者と保護者。

**4歳児調査（H30年度）**：4歳児の担任保育者と保護者。

**5歳児調査（R元年度）**：5歳児の担任保育者と保護者。

\* 本中間報告では、**3～5歳児調査全てに参加した対象児のデータ**を使用しています。

- **調査協力園：**

**全国の国公立の幼稚園，保育所，認定こども園**（各年度約90園）。

- **調査時期：**

各年度の12月から，翌年3月まで。

### 3. 分析 1 (因子分析) ①

- ◆まず、「認知的スキル」「社会情緒的スキル」「生活スキル」「実行機能」などを捉えるために、因子分析を行いました。
- ◆なお、本研究では「**認知的スキル**」を「**学びの力**」と、「**社会情緒的スキル**」を「**育ち・学びを支える力**」と、「**生活スキル**」を「**生活の力**」と呼ぶこととしています。
- ◆「**認知的スキル**」に「**生活スキル**」を加えた「**学び・生活の力**」について探索的因子分析等を行いました。その結果、5歳児のみ「**読み書き・数**」因子がさらに「**基礎**」と「**応用**」に分かれるものの、3歳児から5歳児まで一貫して「**生活習慣**」「**読み書き・数**」「**分類**」「**言葉**」の**4因子構造**であることが確認されました。
- ◆「**育ち・学びを支える力 (社会情緒的スキル)**」についても探索的因子分析等を行い、3歳児から5歳児まで一貫して「**好奇心**」「**自己主張**」「**粘り強さ**」「**自己調整**」「**協同性**」の**5因子構造**であることが確認されました。

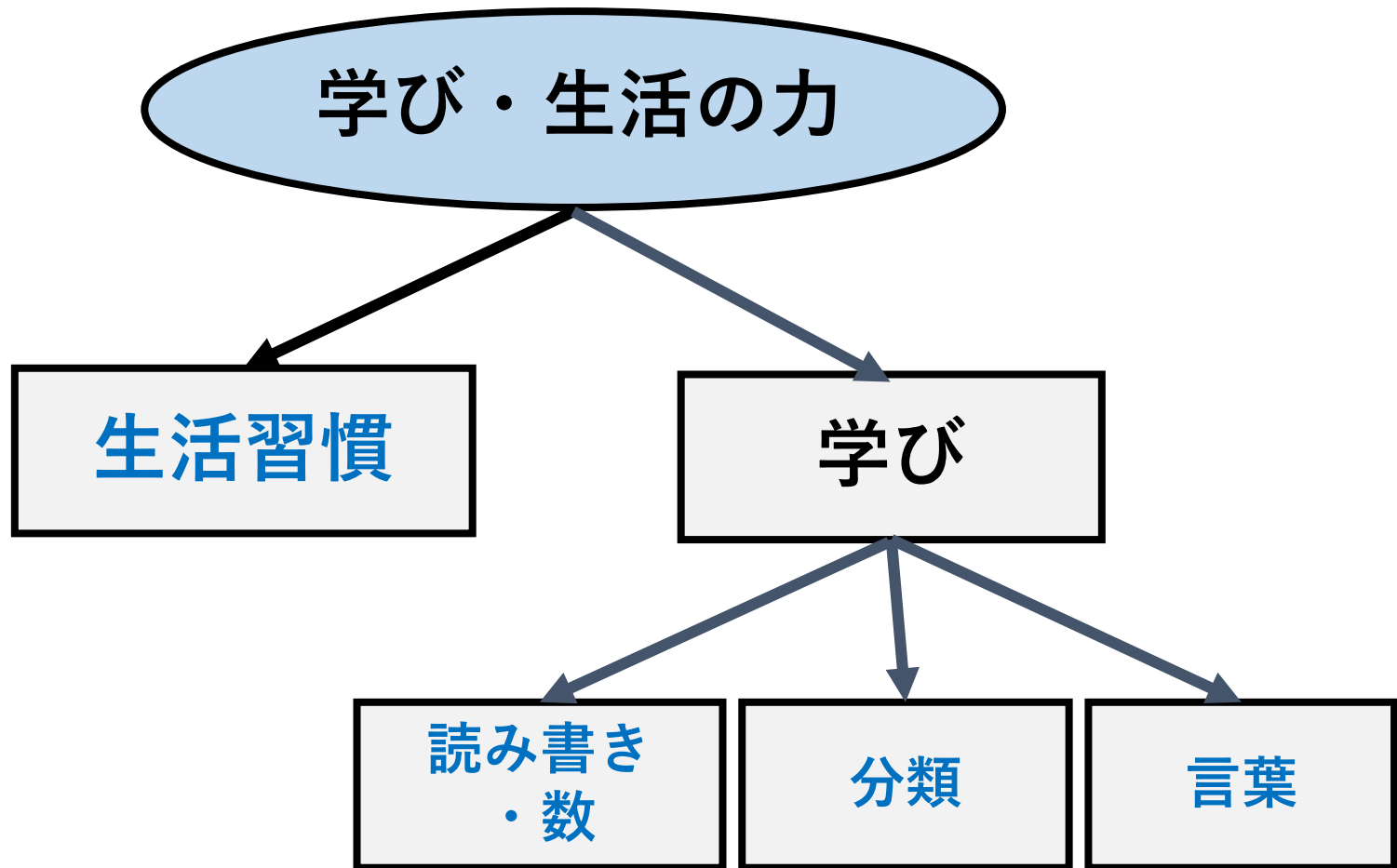


図1 「学び・生活の力」 確認的因子分析モデル図（3，4歳児）

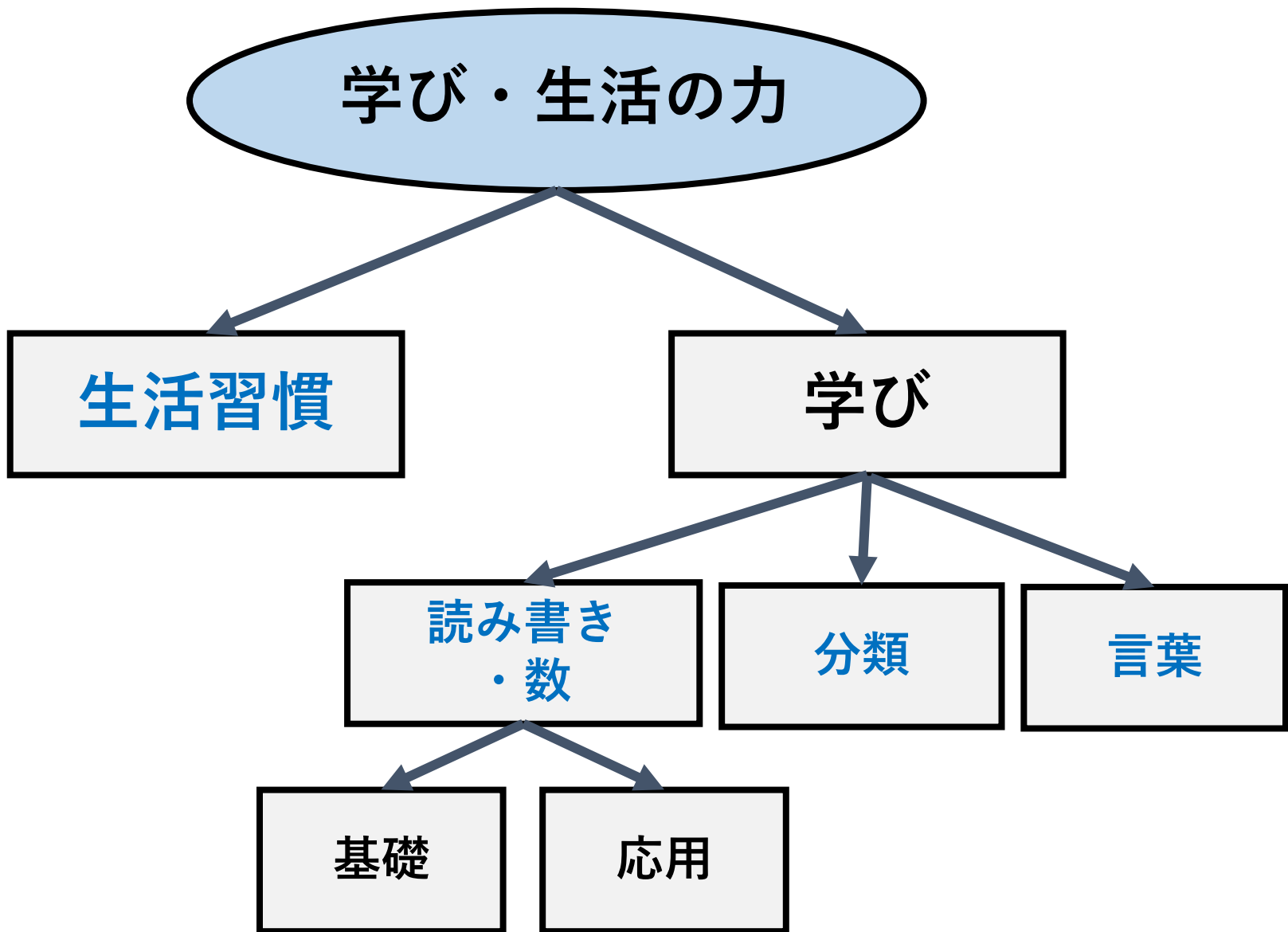


図2 「学び・生活の力」 確認的因子分析モデル図 (5歳児)

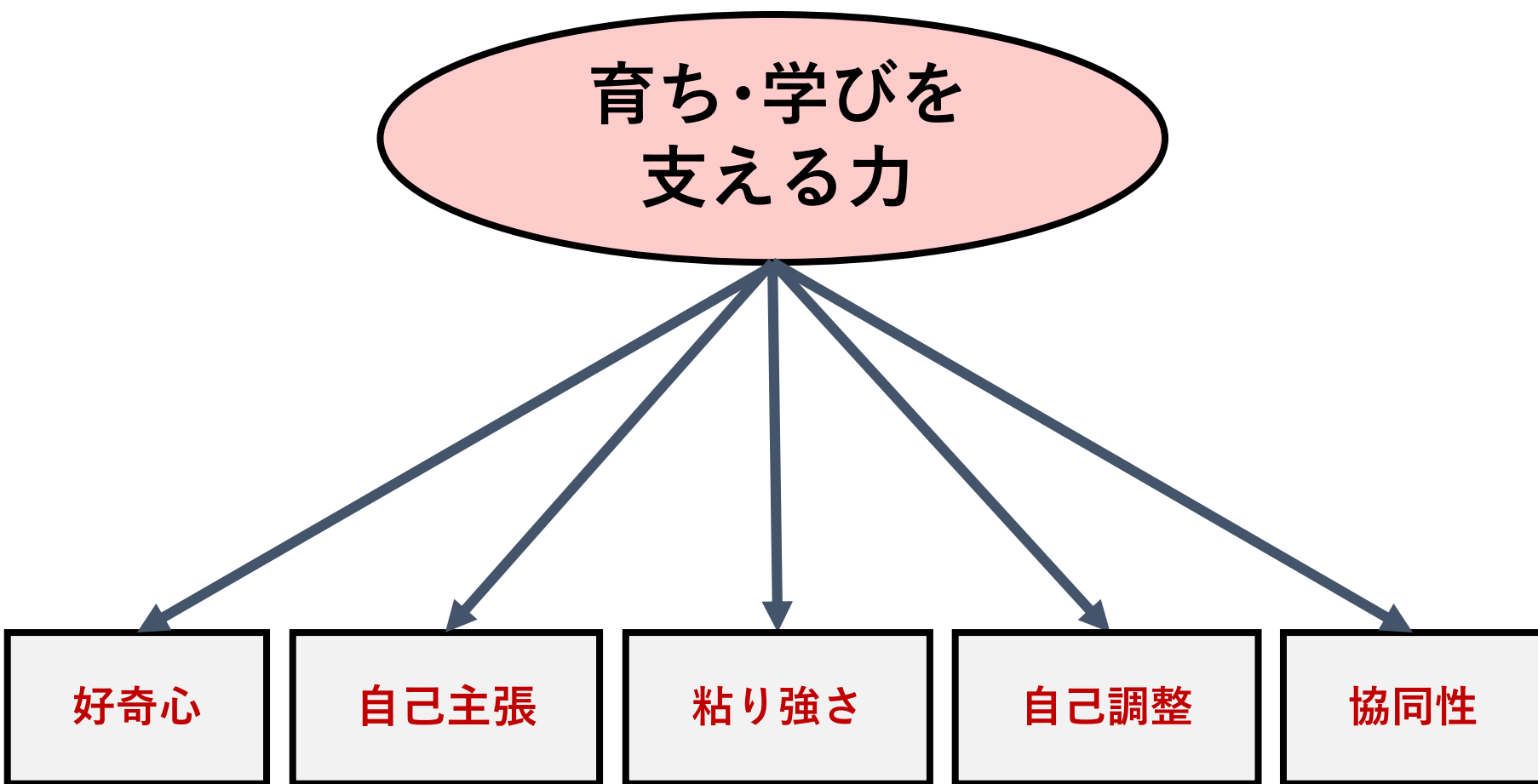


図3 「育ち・学びを支える力」 確認的因子分析モデル図 (3, 4, 5歳児)

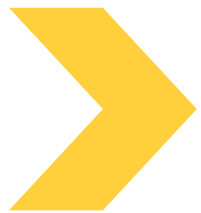


以上より，以後，「**学び・生活の力**」の**4 因子**，「**育ち・学びを支える力**」の**5 因子**を用いて，その発達的变化や影響，他の要因との関連について分析することにしました。



### 3. 分析 1 (因子分析) ②

- ◆ 「**実行機能**」とは、「目標志向的な、思考、行動、情動の制御」を行う能力で、「社会情緒的スキル」にも「認知的スキル」にも関連するものとして、近年注目されているものです。
- ◆ 「**実行機能**」と、関連する「**抑制**」を合わせた「**実行機能・抑制**」について探索的因子分析等を行ったところ、「**実行機能**」では「**ワーキングメモリ**」「**切替え**」の2因子、「**抑制**」では「**感情抑制**」「**行動抑制**」の2因子が抽出され、3歳児から5歳児まで一貫して「**ワーキングメモリ**」「**切替え**」「**感情抑制**」「**行動抑制**」の**4因子構造**であることが確認されました。



以上より、以後、「**実行機能・抑制**」については、**4因子**を用いて、その発達的变化や他の要因との関連について分析することにしました。

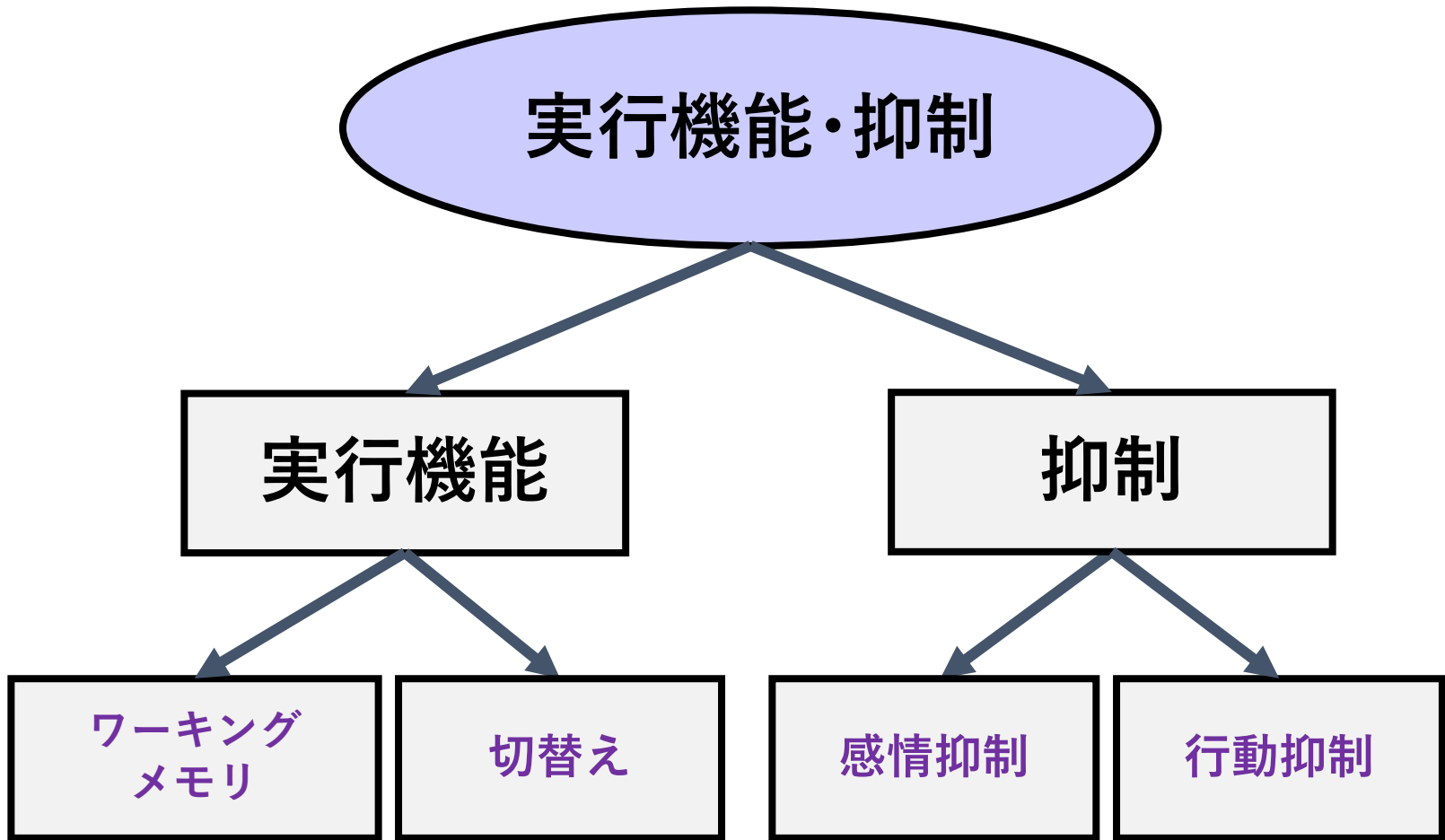


図4 「実行機能・抑制」 確認的因子分析モデル図 (3, 4, 5歳児)

## 4. 分析 2

（「学び・生活の力」と「育ち・学びを支える力」との関連）

**「学び・生活の力」** **「育ち・学びを支える力」** の 9 因子が、3 歳児から 5 歳児にかけてどのように影響を及ぼすかについて、保育者調査、保護者調査それぞれについて検討しました。その主な結果は、以下のとおりです。

- ① 保育者調査でも保護者調査でも、**ほぼ全ての因子の自己相関が統計的に有意**。例えば、3 歳児で **「好奇心」** が高いと 4 歳児でも 5 歳児でも **「好奇心」** が高い。
- ② 保育者調査では、**「生活習慣」「読み書き・数」** から他の因子への有意なパスが多い。また、3 歳児の **「自己主張」** から 4 歳児の **「言葉」** へ、4 歳児の **「粘り強さ」** から 5 歳児の **「生活習慣」** への影響も見られた。
- ③ 保育者調査に比べて保護者調査では有意なパスが少なかったが、**「生活習慣」** から **「粘り強さ」** へなど、いくつかの影響は見られた。

# 分析 2 (3 ~ 5 歳児のパス解析)

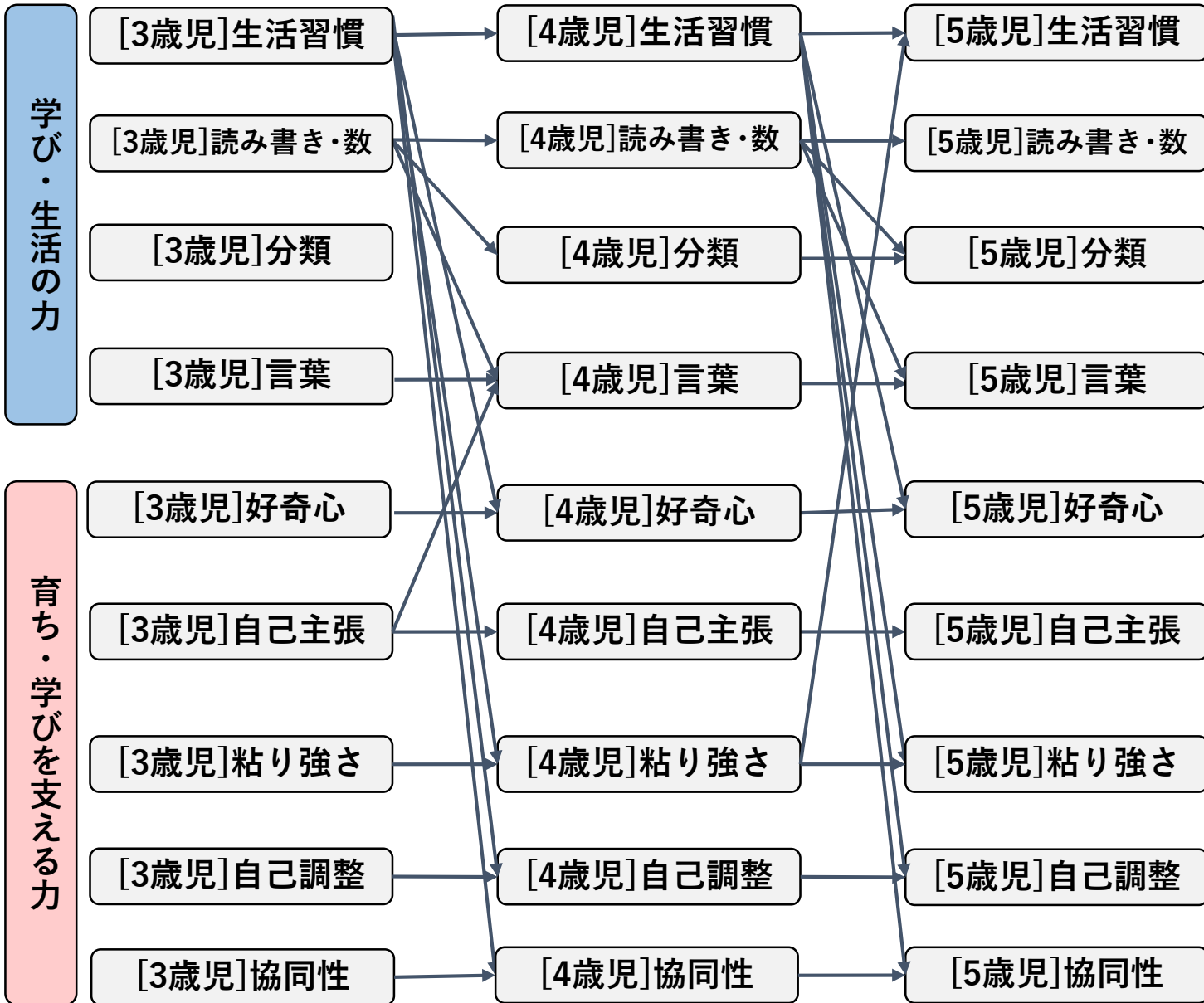


図 5 3 歳児から 5 歳児にかけての交差時差遅れ分析モデル (保育者)

# 分析 2 (3 ~ 5 歳児のパス解析)

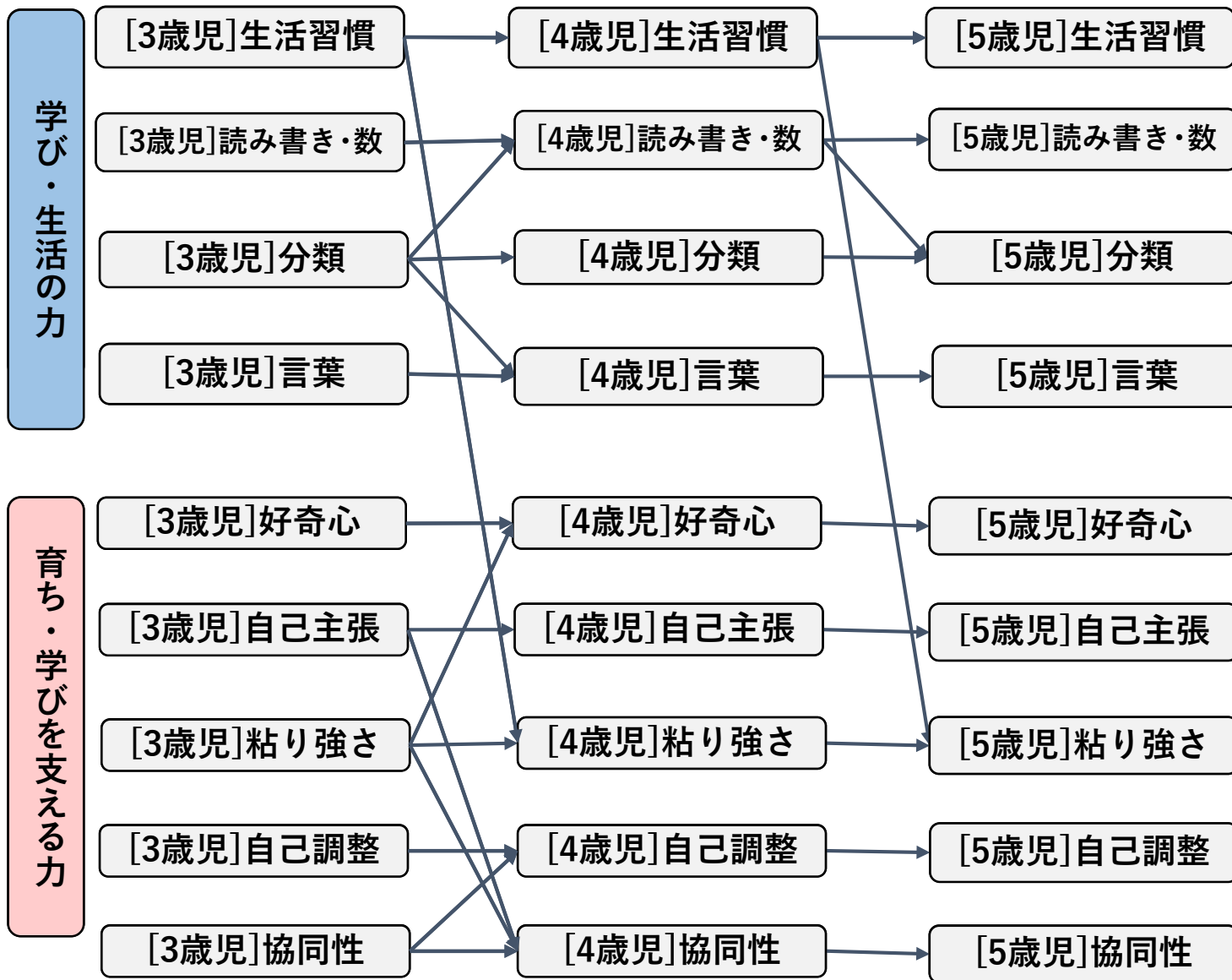


図 6 3 歳児から 5 歳児にかけての交差時差遅れ分析モデル (保護者)

## 5. 分析 3 ①

（「実行機能・抑制」や「家庭での読書環境」との関連）

「**学び・生活の力**」「**育ち・学びを支える力**」と「**実行機能・抑制**」の「**ワーキングメモリ**」「**切替え**」「**感情抑制**」「**行動抑制**」の4因子との関連を検討するため、**相関分析**を実施したところ、「**学び・生活の力**」「**育ち・学びを支える力**」と「**実行機能・抑制**」間には統計的に**有意な正の相関**が見られました。



今後「**実行機能・抑制**」の影響も考慮しながら、「**学び・生活の力**」「**育ち・学びを支える力**」の発達的変化等について検討していきます。

## 5. 分析 3 ②

(「実行機能・抑制」や「家庭での読書環境」との関連)

「家庭での読書環境」の「読み聞かせ頻度」「一人で本を読む頻度」「家庭の蔵書数」3項目について、回答者数が同程度になるように高群と低群に分け、「学び・生活の力」の「生活習慣」「読み書き・数」「分類」「言葉」4因子の得点差を検討しました。

「読み聞かせ頻度」：週に3,4日以上本を読み聞かせる群とそれ未満の群に分けてt検定。

→ 3,4歳児での4因子すべてで統計的な有意差あり。5歳児での有意差なし。

「読み聞かせ」から「一人読み」に移行する5歳児という時期の影響の可能性あり。

「一人で本を読む頻度」：週に3,4日以上本を読む群とそれ未満の群に分けてt検定。

→ 3,4,5歳児の4因子すべてで統計的な有意差あり。

「家庭の蔵書数」：50冊以上蔵書がある群とそれ未満の群に分けてt検定。

→ 3歳児での4因子すべてで、4歳児での「読み書き・数」「分類」「言葉」で、5歳児での「読み書き・数」「言葉」において、統計的な有意差あり。4,5歳児で「一人で本を読む頻度」より影響が少ないのは、園での読み聞かせや絵本の貸出等により「家庭の蔵書数」による差が縮小した可能性あり。

## 5. 分析 3 ③

(「実行機能・抑制」や「家庭での読書環境」との関連)

「家庭での読書環境」の「読み聞かせ頻度」「一人で本を読む頻度」「家庭の蔵書数」3項目について、回答者数が同程度になるように高群と低群に分け、「育ち・学びを支える力」の「好奇心」「自己主張」「粘り強さ」「自己調整」「協同性」5因子の得点差を検討しました。

「読み聞かせ頻度」：週に3,4日以上本を読み聞かせる群とそれ未満の群に分けてt検定。

→ 3,5歳児での「好奇心」「粘り強さ」「自己調整」「協同性」、4歳児での「好奇心」「自己主張」で統計的な有意差あり。

「一人で本を読む頻度」：週に3,4日以上本を読む群とそれ未満の群に分けてt検定。

→ 3,4,5歳児の5因子すべてで統計的な有意差あり。

「家庭の蔵書数」：50冊以上蔵書がある群とそれ未満の群に分けてt検定。

→ 3歳児での「好奇心」「自己主張」「粘り強さ」「自己調整」、4歳児での「自己主張」

「粘り強さ」「自己調整」で、統計的な有意差あり。5歳児では有意差なし。多くの園で読み聞かせや絵本の貸出等を行っていることが5歳児で「家庭の蔵書

数」の影響が表れなかった可能性あり。





今後、幼児期の調査の結果に小学校1，2年生調査のデータを加えて検討し、幼児期から児童期への「**学び・生活の力**」「**育ち・学びを支える力**」の発達的变化や影響、「**実行機能・抑制**」や他の要因との関連について分析していきます。